2016 年 6 月 22 日放送

印象に残る症例①

生駒胃腸科肛門科診療所　所長　　**増田　勉**

　診療所では、胃腸科肛門科の専門の診療を行っています。漢方薬を治療に使う機会も多く、今日はその中でも患者さんに非常に役立ってくれている、芎帰膠艾湯についてお話をします。芎帰膠艾湯は、出血をとめてくれるお薬です。経験的に妊婦さんが服用しても赤ちゃんに影響の無い、安心・安全なお薬です。

　私が診療している病気の中で、患者さんが出血症状で困る代表格が痔です。実際、他の医療機関で痔のお薬を処方してもらっているのになかなか出血が止まらないと言って、受診される方も多くいます。

　最近は脳梗塞、心筋梗塞等の治療の為に、抗血栓療法を受けている患者さんも沢山おられます。また、糖尿病等が原因で腎不全になり、血液透析を受けられる方も増えています。あるいは、特殊な血液の病気で出血が止まりにくくなる方もおられます。そういった方が出血性痔核を患うと、なかなか血が止まりません。出血コントロールに難渋するわけです。私はこういった患者さんに痔の外用薬と合わせて芎帰膠艾湯を処方します。そうするとしばらくの後にまず全例、出血は止まります。多くのこういった経験を通して現在は、“芎帰膠艾湯を中心とするお薬の治療で、止血できない痔核出血はまず無い”と確信しています。

　私が芎帰膠艾湯を使って治療する他の病気に、憩室出血と放射線性直腸炎があります。

　憩室出血の症状の多くは、突然の肛門出血です。腹痛は滅多にありません。大腸憩室を持っておられる方は多くおられるのに、何故ある人だけが出血するのかその原因はわかっ

ていません。１週間ほどの入院で治ることが多いのですが、稀に手術が必要な場合があります。具合が悪いのは、度々繰り返すことです。その度に入院していると、大事な仕事を持っている方々は、仕事を止めさせられる危険も出てきます。こういった方に私は芎帰膠艾湯を処方します。そうすると芎帰膠艾湯服用前には度々憩室出血していた方が、ほとんどしなくなります。

また、放射線性直腸炎は、前立腺癌や子宮癌等に対する放射線照射の為に直腸に炎症が起きて、出血しやすくなる疾患です。放射線の影響で直腸に難治性炎症が起き、度々出血します。レーザーによる焼灼で止血を図ったりしますが、再出血することも多く、厄介な疾患です。こういった方にも私は芎帰膠芥艾湯を処方します。そうすると芎帰膠芥艾湯服用前には度々出血していた方が、しにくくなります。出血がひどい場合はレーザー治療も併せて行いますが、恐らくレーザー単独で治療しているよりも芎帰膠艾湯を併用した方が、出血回数、レーザー治療回数を減らせるのではないかと考えています。

今回は芎帰膠艾湯が出血を止めてくれた多くの経験の中から、度々出血を繰り返し、貧血を来した放射線性直腸炎の患者さんのお話をします。

症例は、60 歳代の男性です。平成 20 年に前立腺癌の為放射線療法を受けられました。その１か月後に出血を認め、内視鏡検査で放射線性直腸炎と診断されました。この時の血液検査で血中ヘモグロビン濃度が、12.6 と軽度の貧血を認めました。その後は時々出血するだけなので、特別な治療をされていませんでした。12 月には全大腸内視鏡検査も施行し、軽度の直腸炎を認める以外に特に異常ありませんでした。

2 年後の平成 22 年 2 月にも定期検査目的に全大腸内視鏡検査を施行しましたが、前回の所見と同様で、直腸に軽度の炎症を認めるのみでした。

ところが翌 3 月に出血するようになり、それが毎日続くとのことで受診されました。直ぐに芎帰膠艾湯とステロイドの坐薬を処方しますと、1 カ月後には出血が 1 週間に 1～2 回程度に減りました。その後もしばらくの間、芎帰膠艾湯を継続して頂いていましたが、出血が安定していたのでステロイドの坐薬を屯用で処方するのみとし、御本人の希望もあって 7 月から一旦服薬を中断していました。その後は幸いにも急には出血回数は増加せず、１ヶ月に 1～2 回ほどで経過しておられました。

しかし、平成 23 年 1 月になって出血回数が増加し、ステロイドの坐薬で出血が止まりにくくなってきました。またこの時少し息切れがするとのことでしたので血液検査を施行したところ、血中ヘモグロビン濃度が 7.8 と高度の貧血を認め、鉄剤の経静脈投与が必要となりました。

4 月には大阪の病院を御自分で受診され、放射線性直腸炎に対するアルゴンレーザー治療を 1 回受けて来られました。5 月の血液検査で貧血は改善し、鉄剤投与を中止しました。

この後、一旦は出血回数が減ったのですが、再び増加し、レーザー治療 2 ヵ月後には 1

週間に 8 回ほどの出血回数となりました。

この間の治療は、ステロイドの坐薬や、注腸製剤が使用されていましたが、出血を完全に止めることはできていませんでした。このままでは再び貧血が進行してしまいます。レーザー治療も止血手段として一時的には有効ですが、しばらくすると再出血してしまいます。

この方には普段から継続して止血する治療が必要と考え、芎帰膠艾湯を再度処方することにしました。これで効果が無ければ、レーザー治療をこの治療に重ねて行う方針としました。

そこで患者さんに説明して、11 月から芎帰膠艾湯の服用を再開してもらいました。すると出血回数が減少し始めました。翌年 1 月の血液検査では、血中ヘモグロビン濃度が 12.4 と貧血は軽度でした。

芎帰膠艾湯再開 4 ヶ月後には出血回数が週に 4 回､6 ヵ月後には週に 2 回になっていきました。そして 1 年後には 1 ヶ月に 1 回となりました。

それからの現在に至るまでの 4 年 6 ヶ月間、芎帰膠艾湯を継続して頂いていますが、1 年の内で思い出したように、時々、少量の出血を認めるのみで、1 回の貧血の進行も、鉄剤投与も勿論レーザー治療も必要としていません。治療は唯一、芎帰膠艾湯を継続して内服して頂いているだけです。その他の治療及び併用薬は一切ありません。当然、患者さんは非常に喜んでおられます。

放射線性直腸炎の為に出血を繰り返す患者さんに対して、芎帰膠艾湯にて出血が改善した為内服中断したところ増悪し、アルゴンレーザーによる焼灼で一旦は改善したものの、その後再び出血が増悪した症例に対して、長期間芎帰膠艾湯を継続服用することにより、その後の出血を制御できている 1 例であります。

正に芎帰膠艾湯は、長期間継続することによってその威力を発揮する薬剤であることを痛感します。長期に渡って出血を来す病態こそ、芎帰膠艾湯の出番です。一旦症状が治まっても、病態的に症状が継続する可能性がある場合は、芎帰膠艾湯の継続服用をお勧めしなければならない事を学びました。長期間服用するわけですから、副作用があっては困ります。その点も芎帰膠芥艾湯なら安心です。

芎帰膠艾湯、本当にありがとう。